

平成21年12月15日

各 位

会社名 株式会社サンオータス
代表取締役社長 北野 俊
(JASDAQ コード番号: 7623)

問い合わせ先
常務取締役管理本部長 古川 晴 男
TEL(045)473-1211 (代表)

平成22年4月期第2四半期累計期間の業績予想との差異に関するお知らせ

平成22年4月期第2四半期累計期間(平成21年5月1日～平成21年10月31日)の業績予想について、平成21年6月19日付当社「平成21年4月期決算短信」にて公表いたしました業績予想と、本日公表の平成22年4月期第2四半期累計期間の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成22年4月期第2四半期累計期間の連結業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成21年5月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	15,500百万円	160百万円	120百万円	100百万円
実績値(B)	15,214百万円	74百万円	68百万円	37百万円
差異(B)－(A)	△286百万円	△86百万円	△52百万円	△63百万円
差異率	△1.8%	△53.6%	△43.3%	△63.0%
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年4月期第2四半期)	18,845百万円	△174百万円	△175百万円	△191百万円

(2) 差異が生じた理由

カーライフサポート事業のSS(サービスステーション)部門では、石油製品の売上高は、期中、原油価格が上昇し、販売価格にも反映されましたが、前年同期の販売単価を大幅に下回って推移し、需要後退の影響により販売数量が前年割れとなったことも重なって、売上高は前年同期実績を下回りましたが、期中の販売単価が当初計画に比べて上振れしたため、当初計画を703百万円上回りました。また、レンタカー部門では、個人向け売上は順調に推移しましたが、景気後退の影響を受けて法人向け売上が低調に終わったこと等により当初計画を30百万円下回りました。その結果、カーライフサポート事業の売上高は6,874百万円(前年同期比2,716百万円減少)となり、当初計画を581百万円上回りました。

カービジネス事業では、国内の新車販売台数は、エコカー減税制度等の緊急経済対策が一定の効果を発揮し、ハイブリッドカーなどの需要が回復してきましたが、当社グループが販売する3ブランドの輸入車に関しては、これらの対策の効果はなく、各ブランドとも新型車種の投入が少なかったことに加え低燃費車志向などの影響も受けて、新車・中古車の販売が共に苦戦を強いられました結果、売上高は8,161百万円(前年同期比966百万円減少)と計画に対し820百万円と大幅に下回りました。

不動産関連部門は、引き続き堅調に推移し、売上高は235百万円(前年同期比7百万円増加)と、計

画を7百万円上回りました。

その結果、当第2四半期累計期間のグループの売上高は15,214百万円(セグメント間の売上相殺消去前の売上高は15,272百万円)となり、当初計画を286百万円下回りました。

利益面においては、カーライフサポート事業部門ではS S間の価格競争は依然として激しく、仕入価格上昇分をタイムリーに販売価格に転嫁することができない状態に陥り、終始厳しい状況下に置かれたため、また、レンタカー部門でも車両保有コストの上昇もあり、営業利益は55百万円を確保したものの当初計画に対しては60百万円の未達成となりました。

カービジネス事業部門では、売上高は未達成に終わりましたが、売上原価の減少に加えて販売経費の削減への取組も功を奏し、ほぼ計画通り、営業利益72百万円を計上しました。

不動産関連部門の営業利益は52百万円となり計画をやや上回りましたが、グループ業績への影響は限定的でした。

以上より、営業利益は74百万円となり、当初計画を86百万円下回りました。

経常利益は、借入金支払利息の増加などにより営業外支出が営業外収入を6百万円上回ったことに伴い、当初計画を52百万円下回る68百万円となりました。

当期純利益は、不採算店舗の閉鎖に伴う特別損失6百万円と、法人税等25百万円を計上し、当初計画を63百万円下回る37百万円となりました。

売上高については、第2四半期累計期間では、ガソリン販売価格の再上昇を要因とした増加がありました。通期予想においては、原油価格の先行きが不透明であり、燃料油の仕入価格や販売価格及び販売数量に不確定な要因を含んでおり、輸入車ディーラー部門においては、下期にはハイブリッドカーを始めとするエコカーの投入やジャガー車のモデルチェンジなどが具体化しており、売上に繋がるものと想定されること等を勘案して修正は行ないません。

また、利益面でも、上記による売上高の確保とグループを挙げて取り組んでいるコスト削減策等の効果が下期にはフルに表れるものと予想されるため、当初予想値から変更しておりません。

2. 平成22年4月期第2四半期累計期間の個別業績予想と実績との差異等

(1) 第2四半期累計期間(平成21年5月1日～平成21年10月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回公表予想(A)	7,000百万円	10百万円	50百万円	60百万円
実績値(B)	7,868百万円	△60百万円	△1百万円	16百万円
差異(B)－(A)	868百万円	△70百万円	△51百万円	△44百万円
差異率	12.4%	－	－	△73.0%

(2) 差異が生じた理由

個別業績については、カーライフサポート事業部門は連結において説明した内容が主な要因であり、カービジネス事業部門は、フォード車の販売が新型車種の投入が無かったこと及びエコカー減税制度の実施に伴い消費者の志向が低燃費車種へシフトしたこと等により、売上高は当初計画を下回り、利益面においても計画を9百万円下回り、営業損失を計上いたしました。

その結果、売上高は7,868百万円(前年同期比2,990百万円減少)と計画を上回りましたが、60百万円の営業損失を計上する結果となりました。経常利益は、子会社からの配当金収入などがありましたが、営業損失を補いきれず1百万円の経常損失となり当初計画に対して大幅な差異が生じました。

貸倒引当金戻入に伴う特別利益27百万円及び不採算店舗の閉鎖に伴う特別損失6百万円と法人税等25百万円を計上し、第2四半期累計期間の純利益も当初計画を44百万円下回る16百万円となりました。

通期の予想につきましては、連結業績と同様の見通しより、当初予想値から変更しておりません。

※ なお、連結及び個別の通期業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、今後様々な要因によって実際の業績は予想数値と異なる場合があります。

以上